

## 調査研究の範囲・実施方法

情報化社会における都市生活をより快適なものにする上で音は重要なファクターの一つであり様々に利用されている。今回は特に超音波に主眼をおいてその利用目的・方法・形態などについて、文献、講演会、研究会、展示会等の調査に加え、研究機関の有識者や企業に対する取材・聞き取り調査を行なった。

今回の調査の主眼は学術的な調査というよりも、幅広い分野を対象とした超音波の応用事例を通じて、市民生活をより快適なものにする音＝超音波の様々な利用を多面的に調査し、市民生活を接点とした超音波利用の展開・発展の方向を探ることに重点を置いている。従って工業的に既に確立している超音波応用分野は原則として調査対象外としている。

調査方法としては、当財団が独自に各調査を実施する一方、特許調査を行ない、全体を通じて今後の展開方向を探ることとした。